

スギ・ヒノキ花粉飛散について

新田原耳鼻咽喉科クリニック

松下 太

【はじめに】

昨年5月に新型コロナが5類に移行して初めての花粉シーズンとなります。マスクもつけない人が増えてきていますので、今シーズンはスギ花粉による症状が強く出る方が多くなるのではないかと危惧されます。

今回も、昨年度の飛散報告と今年の1月時点での飛散予測を発表させていただきます。

なお、データは当院で測定を開始した2006年以降について検討しています。

【昨年(2023年)春のスギ・ヒノキ花粉飛散状況】

行橋市の花粉飛散状況(表1)を見ると、スギ花粉は8717個と前年の3211個の2倍以上の飛散になりました。昨年の会報では飛散は多くなると予想していましたので、予想は当たったようです。

ヒノキ花粉も5166個と前年の4092個より少し多くなりました。

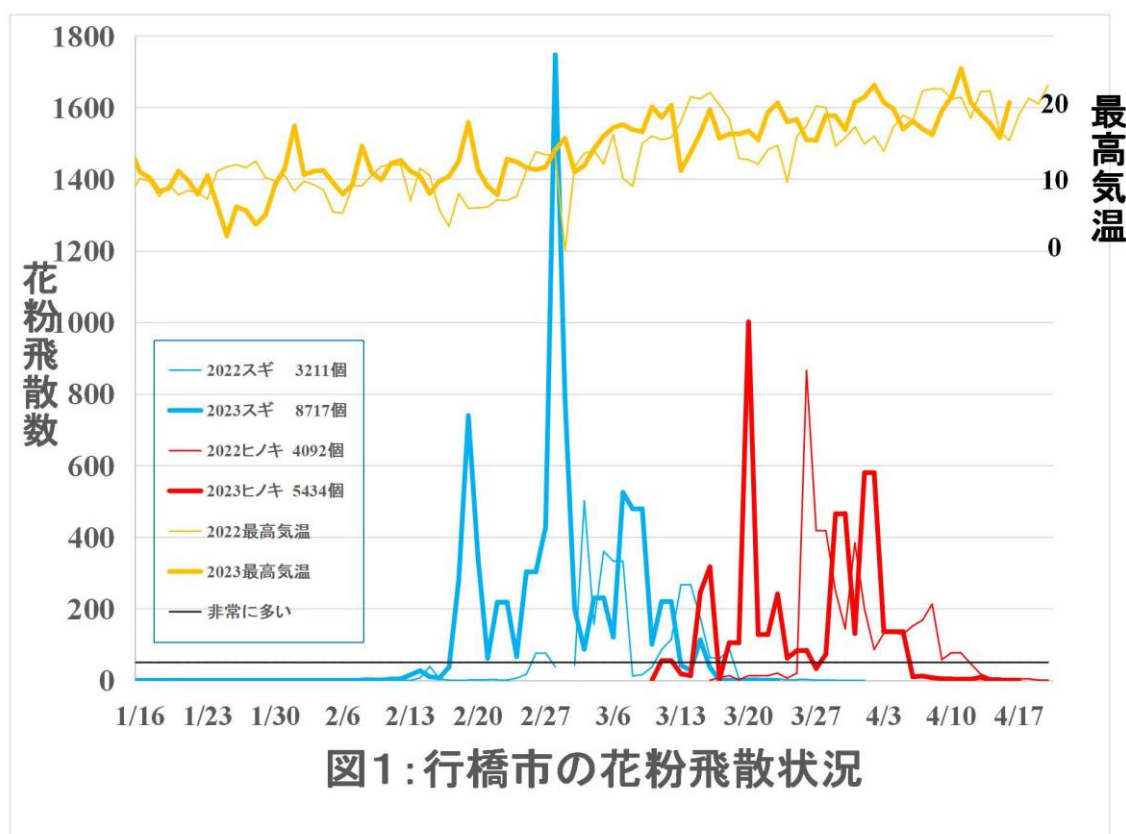
九州内の各定点と比較してみると、スギ花粉は52定点中6番目、ヒノキ花粉は2番目の飛散となっていて、昨年も行橋市はスギ・ヒノキとも飛散の多い地域となりました。

表1:行橋市の花粉飛散の変遷 ()内は九州内の順位

	スギ	ヒノキ
2006年	3317個 (9)	3561個 (4)
2007年	3324個 (6)	747個 (7)
2008年	4559個 (7)	2376個 (4)
2009年	3146個 (19)	1413個 (16)
2010年	2042個 (3)	344個 (8)
2011年	6271個 (5)	5072個 (3)
2012年	4096個 (7)	982個 (15)
2013年	7112個 (5)	2856個 (4)
2014年	3642個 (26)	3909個 (6)
2015年	2342個 (6)	405個 (4)
2016年	2606個 (4)	1102個 (4)
2017年	6027個 (4)	4874個 (3)
2018年	4422個 (2)	7946個 (3)
2019年	8296個 (4)	9416個 (2)
2020年	2237個 (6)	579個 (5)
2021年	5954個 (3)	3232個 (2)
2022年	3211個 (3)	4092個 (3)
2023年	8717個 (6)	5166個 (2)
過去18年の平均値	4519個	3241個

さらに飛散状況(図1)を見てみると、スギ花粉は1月末の寒波の後2月に入って急に暖くなったため、前年よりかなり早く2月中旬に飛散開始し、その後一気にピークに入り、100個以上の本格飛散が1か月近く続きました。その後3月下旬に飛散終了となりスギ花粉の大量飛散年となりました。

その後、休む間もなくヒノキ花粉のピークに入りました。ヒノキ花粉は3月上旬に飛散開始し、その後3月中旬にピークを迎えました。4月上旬まで飛散が続き、ヒノキ花粉は前年よりやや多い飛散となりました。



飛散状況をさらに細かく見てみると(表2)、スギの飛散開始日(二日続けて1個以上の飛散を認めた初日)は2/8と前年より6日早くなりました。その後2/13からは本格飛散期(10個以上の飛散)に入りました。さらに2/18には爆発的飛散期(100個以上の飛散)に入り、その後1か月近くピークが続きました。最大飛散日は2/28(1747個)でした。爆発的飛散日数は前年の9日から21日と激増しています。

ヒノキ花粉は3/11と前年より5日早く飛散開始しました。暖かい日が続いていたこともあり、初日から10個以上の本格的飛散期に入り、3/15には爆発的飛散となりました。このピークは4月上旬まで続き飛散終了となりました。最大飛散は3/20の1001個で、爆発的飛散日数は前年(13日)よりやや増えて16日となりました。スギ花粉のピークに引き続いてヒノキ花粉のピークに突入した

ために症状が長く続いた方も多かったようです。

表2: 行橋市の花粉飛散状況の比較

	スギ		ヒノキ	
	2022	2023	2022	2023
初観測日	1月28日	1月19日	3月15日	3月11日
飛散開始日	2月14日	2月8日	3月16日	3月11日
本格飛散開始日	2月15日	2月13日	3月17日	3月11日
爆発的飛散開始日	3月2日	2月18日	3月25日	3月15日
爆発的飛散日数	9日	21日	13日	16日
最大飛散日	3月2日	2月28日	3月25日	3月20日
最大飛散数	502個	1747個	865個	1001個
総飛散数	3211個	8717個	4092個	5434個

県内の飛散状況(図2)を見ると、行橋市のスギ花粉飛散は8717個で、九州全体でみると6番目でした。県内のほかの定点では飯塚市(8)、豊前市(9)となっていて、例年よりは他県の飛散が多かったようです。それでも、筑豊から京築にかけてはスギ花粉が多い地域なのは変わりないようです。一方、ヒノキ花粉は行橋市では5434個と2番目に多い飛散でした。県内では飯塚市(3)福岡市(4)甘木市(7)直方市(10)となり、福岡県は今回もヒノキ花粉も多い地域となりました。なお、九州内では52定点で花粉測定を行っています。

(九州内ランキング)

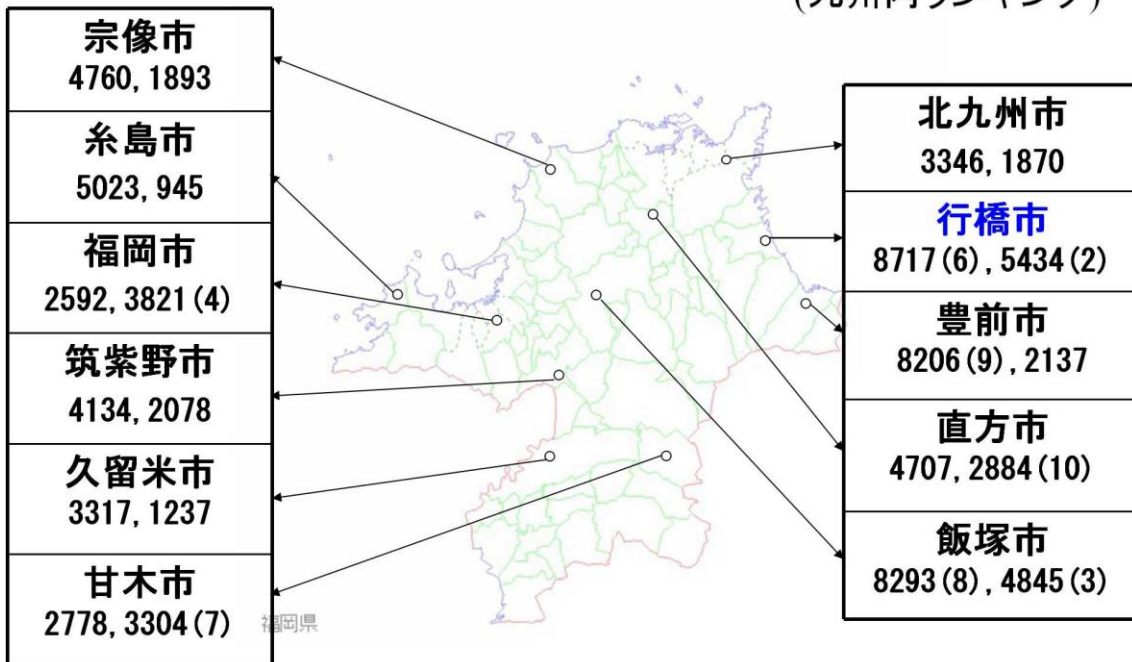


図2：福岡県内の花粉飛散数（スギ, ヒノキ）

【今年(2024年)の花粉飛散予想】

スギ花粉飛散は前年7月が暑くて雨が少ないと飛散が多くなるといわれています。2023年7月(表3)は、最高気温は31.1℃と暑かったのですが、降水量が603mmと多くなりましたので、スギの花粉の花芽形成は前年より抑制されていると考えられます。また、前年の飛散が多かったため、今年は裏年になって、2024年春のスギ飛散は前年より少なくなって3000~4000個程度にとどまるのではないのでしょうか。

ただ、飛散開始時期は、昨年末から暖かい冬になっていて、昨年より早く2月上旬から中旬には飛散開始となると思われます。

ヒノキ花粉の方は気象からの予測は難しいですが、やはり昨年よりは飛散が減って2000~3000個となると予想します。飛散開始時期はやはり例年より早く3月上旬から中旬にはピークに入るでしょう。

表3: 前年7月の気象とスギ飛散状況

	日最高気温	降水量	翌年スギ花粉数
2005年	30.4℃	288mm	3317個
2006年	29.7℃	554mm	3324個
2007年	29.1℃	343mm	4559個
2008年	32.4℃	48mm	3146個
2009年	29.7℃	627mm	2042個
2010年	30.2℃	569mm	6271個
2011年	30.4℃	155mm	4096個
2012年	30.4℃	591mm	7112個
2013年	32.9℃	181mm	3642個
2014年	29.9℃	506mm	2342個
2015年	28.6℃	220mm	2606個
2016年	31.0℃	238mm	6027個
2017年	32.2℃	364mm	4422個
2018年	31.8℃	537mm	8296個
2019年	29.2℃	381mm	2237個
2020年	28.0℃	702mm	5954個
2021年	30.8℃	123mm	3211個
2022年	31.3℃	157mm	8717個
2023年	31.1℃	603mm	????個

【コロナ5類移行後の花粉症対策】

昨年5月に新型コロナが5類に移行して、日常生活が戻ってきました。昨年までと違い街中でもマスクを着用しない方も多くみられるようになりました。コロナ前には、花粉症対策としてマスクを着けていなかった方も、コロナによりマスクをつけていましたので、花粉症の症状も軽くすんでいたと思われます。ただ、今年は花粉自体は昨年よりも少ないものの、マスクを着用しなかったり、外出自体が増えることを考えると、花粉症の症状がひどくなる方が増えるのではないのでしょうか。まだまだ、新型コロナやインフルエンザも終息には程遠い状況ですので、花粉症の方はしっかり花粉対策を行うことで、感染症対策にもつなげるようにしましょう。

【花粉情報】

今シーズンも福岡県内12定点、九州52定点のデータをもとにした花粉情報が2月1日から4月15日まで公表されます。当院でも毎日の飛散状況や翌日の飛散予想、九州各県の飛散状況を「ゆくはし花粉情報」としてホームページとブログで情報発信しています。先生方のお役にたてれば幸いです。

福岡県医師会花粉情報のページ <http://www.fukuoka.med.or.jp/kafun/kafun.htm>
ゆくはし花粉情報 <https://sdbent.web.fc2.com/kafun.htm>
ブログ（院長のこぼれ話） <http://sdbent.blog55.fc2.com/>